

第三章 研究開発の経緯と内容

A スーパーサイエンスハイスクール文化講演会

(1) 研究開発の課題（研究概要）

卓越した業績を残した科学者による講演会を実施して、生徒の意識・意欲の向上に役立てようとするのが本事業の目的である。また、地域の中学校の生徒・教員の代表者や高校教員が参加することで、一宮高校SSHについての地域理解を促進することも目的としている。

(2) 研究開発の経緯

世界の第一線で活躍する研究者を招き、体験談を伺うことで研究の魅力や困難に立ち向かう姿勢を学ぶ。“道を知る”キャリア教育の場として設定した。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

生徒の視野を広げるとともに科学への憧れや意欲・関心を高めることができる。適正なキャリア形成などの「自己評価力」を高める。

イ 研究の内容・方法

対象 本校 生徒 1080名 教員 50名
 中学校 生徒 24名 教員 9名
 連携校 教員 12名 保護者 73名

日時場所 9月25日(水) 一宮市民会館大ホール

実施内容

講演 演題 「アンドロイドと未来社会」

講師 大阪大学大学院基礎工学研究科 教授 石黒 浩 先生

内容 講演では「ロボットは人間の本質を伝える。単に便利なものを作るのではなく、自分たち(人間)の存在をより深く考える社会を目指すことが重要だ」と語られた。生徒達にとって最先端技術を扱ううえで、倫理観やものの本質を考える哲学的な要素も重要であると再認識する機会となった。また、講演会後には、石黒先生と直接話をしたい生徒が集まり、熱心な質疑応答が行われた。

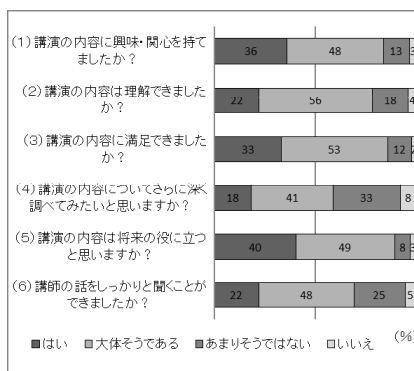


講演の様子

ウ 検証（成果と反省）



懇談会の質疑応答の様子



生徒の感想から

- ・「人工知能が人々を支配する」世間で騒がれている問題に対して、それは人類が「技術」による進化しない場合だとおっしゃったのが印象的で、これからの私たちの使命だと感じた。
- ・「人とは何か」を改めて考えて、自分の価値観が変わる良い機会となった。自分にそっくりなロボットが人から触られると脳波が自分が触られているときのような挙動をとることが興味深かった。

アンケートからは、生徒の興味・関心が高く、将来の役に立つと答える生徒が多いことが分かった。講演会後の質疑も多く、「人」や「科学技術」の在り方を深く考える機会となった。